とらのもん
VOL。４１

発行　全国醸造機器工業組合
〒１０４－００５４　東京都中央区勝どき２－１８－１－５１８
TEL　０３（５５４８）５８９０　ｆａｘ　０３（５５４８）５８９５
ｅ－ｍａｉｌ　zjkk@zjkk.or.jp　http://www.zjkk.or.jp

組合役員再選！

－第42回通常総会開催　平成21年度事業計画･収支予算を承認－

去る９月２８日、東京の「日比谷松本楼」において、通常総会セミナーと懇親会が開催された。

通常総会は藤原理事長の冒頭挨拶後、同理事長が議長となり議案審議に入り、２０年度事業報告・同決算報告・２１年度事業計画・同収支予算の各議案が異議なく承認された。

任期満了に伴い役員改選が行われ、指名推薦役員が満場一致で全員再選された。

（２１年度事業計画・役員は別掲）

総会後に行われたセミナーは、食品産業新聞の瀬戸秀一酒類飲料日報部長による「低価格商品にシフトする酒類業界」及び同社飯塚勝人新聞部長による「醤油業界の最近のトレンド」の講演でした。さらにセミナー後、出席された組合員各社の自社紹介を行い、情報交換した。

懇親会には、経済産業省より木下利明産業機械課課長補佐、日本酒造組合中央会の浅見副会長ほか多数の方に臨席いただいた。

２１年度事業計画/主要事業

１．販売促進・支援事業

１）組合ホームページの充実：ユーザーに対する情報提供、当組合及び組合員の知名度向上を図るため、リニューアル、バージョンアップに注力する。

２）「食の安全」への対応：食品・醸造業界に機器を提供する当組合の立場からの取り組み方について検討する

３）他団体と提携して醸造機器セミナーの開催を検討する。

４）ユーザーへの情報提供：組合への問い合わせや斡旋の依頼に対して適宜、迅速に対応する。

２．情報の収集と提供

１）ユーザー業界の情報収集と組合員各社への情報提供

２）バイオ産業分野の情報収集：バイオエタノールなど醸造技術や機器の応用が期待される分野についての情報の収集と提供

３）ユーザー業界団体との交流の促進：日本酒造組合等の業界団体とのチャンネルを強化

４）国の企業向け施策の紹介：経済産業省等が行う企業支援策や公募事業に関する情報の収集と提供

５）機関紙「とらのもん」の発行

任期満了に伴う役員改選により、今後２年間の組合運営を担う再選された役員

◆理事長：藤原恵子（㈱フジワラテクノアート）　◆副理事長：井上拓（第一工業㈱）、喜多常夫（㈱ルーツ機械研究所）、　◆専務理事：伊藤　勝（員外）

◆理事：本村　幹（㈱本村製作所）、薮田　亘康（薮田産業㈱）、大辻節子（新洋技研工業㈱）

◆監事：冨山好夫（㈱富山鉄工所）、荒木基弘（永田醸造機械㈱）

変革の時期！　日本酒で乾杯！　―懇親会―

通常総会セミナー終了後の懇親会には来賓として（以下敬称略）経済産業省産業機械課木下利明課長補佐、日本酒造組合中央会淺見敏彦副会長、酒類総合研究所木崎康造理事、関西醸造用品組合村上修副理事長、関東用品組合北村公克理事長ほか関係各業界紙の記者が出席、組合員企業の社長とともに盛り上がった懇親会となりました。

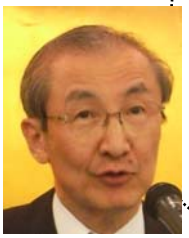
藤原理事長　挨拶（要旨）

日本の政権が代わり、私たちの組合も変革の時期を迎えたのでは。長い歴史を誇る機器の組合であり、食の安心・安全を求めながら、日本が世界に誇る食文化を微力ながらサポートさせていただいているという自覚と自負だけは忘れず、この業界を守り育てていくため一生懸命がんばっていきたい。

木下経済産業省産業機械課課長補佐　挨拶（要旨）

景気動向は厳しい状況が続いているという認識でいる。新内閣が発足し、新しい施策に取り組むことになるが、当面の重点事項は以下の通りです。

①日本の強みを生かし、アジア圏を取り込む形で新たな成長できる産業を生み出していく。その結果雇用を安定的にする。②資金繰りを中心とした中小企業のための施策。③地球温暖化対策（ＣＯ2 削減）。



淺見日本酒造組合中央会副会長　挨拶（要旨）

民主党の新政権を心配する声も聞こえているようだが、まったく心配はしていない。我々は正論を言ってそれに正当な評価を受けているのであって、既得権益集団で恩恵を受けているのではない。業界が価格競争に明け暮れていてはうまくいくわけがない。我々は地場産業として役に立つ食文化の歴史をもつ企業として特色を持って生きていく以外に明日は無い。これからも良きパートナーで…。

関西醸造用品組合も親睦団体から脱皮し、ホームページ拡充、一層商売熱心に！
みなさまのご健勝を祈念し、日本酒で乾杯！
関西醸造用品組合村上副理事長

任期満了に伴う役員改選で全役員が再選された

藤原理事長を再選

全国醸造機器工業組合第 42 回通常総会

乾杯三唱！
再選された役員一同
「醸界タイムス」より

セミナー/業界紙の記者からみた醸造業界の動向

通常総会終了後、食品産業新聞の瀬戸秀一酒類飲料日報部長と飯塚勝人新聞部長をお招きし、セミナーを開催しました。

講演内容は、瀬戸氏が「低価格商品にシフトする酒類産業」、飯塚氏は「醤油業界の最近のトレンド」と題して講演、普段新聞上ではみられない興味深い話に、聞き入りました。

《以下、講演の主な内容です》

低価格品へのシフトすすむ酒類業界

１、低価格品へのシフトが著しい
２、価格決定権の移動とＰＢの台頭
３、ビールメーカーの総合酒類への脱皮
４、清酒の未来は

醤油と調味料関連の最近の動き

【醤油】

１、出荷量の低下が続く
２、厳しい業界の環境
３、小容量化で定番販売

【調味料】

１、内食化で購入量は増加
２、伸びているのは簡便、洋風調味料
３、小容量化が加速

国税庁発表「21年上半期の酒類課税数量」

国税庁が発表した平成２１年１月～６月（平成２１年度上半期）累計の酒類課税数量（国産酒類と輸入酒類の合計）は、４１７万２千kℓで、前年同期に比し０・８％増加し、上半期の実績としては３年ぶりにプラスとなった。品目別では、６品目が前年を上回り、うちリキュール、スピリッツ等、雑種等が２ケタの増加。また、前年マイナスだった、連続式蒸留しょうちゅう、ウイスキーは１ケタながら増加に転じた。清酒、ビール、単式蒸留しょうちゅうなどの主要酒類は低調だった。

平成 21 年上半期(21年 1～6月)酒税課税数量

国税庁調べ　　単位、kl、％

	国税局分＋税関分			国税局分			税 関 分		
	数量	前年比	構成比	数量	前年比	構成比	数量	前年比	構成比
清　　酒	278,686	95.7	6.7%	278,652	95.7	7.0%	34	63.0	0.0%
合成清酒	23,472	96.7	0.6%	23,472	96.7	0.6%	0	－	0.0%
連続式蒸留しょうちゅう	230,619	102.0	5.5%	203,816	103.8	5.1%	26,803	90.1	15.1%
単式蒸留しょうちゅう	254,144	96.1	6.1%	253,925	96.1	6.4%	219	99.5	0.1%
み　り　ん	49,073	96.3	1.2%	48,310	95.9	1.2%	763	128.2	0.4%
ビ　ー　ル	1,362,608	94.5	32.7%	1,351,743	94.6	33.8%	10,865	91.1	6.1%
果　実　酒	118,415	106.2	2.8%	38,803	101.6	1.0%	79,612	108.6	44.8%
甘味果実酒	3,224	82.0	0.1%	1,937	89.5	0.0%	1,287	72.7	0.7%
ウイスキー	36,818	106.5	0.9%	30,101	108.0	0.8%	6,717	100.2	3.8%
ブランデー	3,813	86.3	0.1%	3,165	93.5	0.1%	648	62.9	0.4%
発 泡 酒	603,131	87.3	14.5%	599,573	87.2	15.0%	3,558	107.4	2.0%
その他の醸造酒	356,186	96.4	8.5%	351,869	96.1	8.8%	4,317	125.3	2.4%
スピリッツ等	118,301	142.2	2.8%	114,499	143.9	2.9%	3,802	104.5	2.1%
リキュール	733,071	134.7	17.6%	694,208	133.3	17.4%	38,863	164.4	21.9%
雑　酒　等	884	126.5	0.0%	616	111.2	0.0%	268	184.8	0.2%
合　　計	4,172,446	100.8	100.0%	3,994,685	100.3	100.0%	177,761	111.4	100.0%

（注）　各欄ごとに端数処理を行っているため、縦計については必ずしも符合しない。
表中のスピリッツ等には、原料用アルコールを含み、雑酒等には、粉末酒を含む。

ユーザー業界情報（食品産業新聞ほか業界紙より）

10月1日「日本酒の日」「醤油の日」

都内で「醤油の日の集い」と「日本酒の日 ウォーク」開催

醸造の始まりの季節にちなんで10月1日は「日本酒の日」と「醤油の日」だ。両業界とも海外では日本食ブームが追い風になっているが、この日、国内での需要拡大や価値の向上を目的にイベントを開催した。醤油の日の集いでは、今年からの試みである「しょうゆ味レシピ&エピソードコンテスト」の表彰式などが行われた。清酒業界でも集まった大勢の日本酒ファンに樽酒を振る舞い、需要拡大を誓った。

日本醤油協会と全醤工連は「醤油の日」の10月1日、醤油PR事業の一環として都内ホテルで350人以上の報道関係者らを集め「醤油の日の集い」を開催した。

「日本酒の日 ウォーク」には約120人が参加した

10月1日は日本酒の日

酒造元旦でもある10月1日は昭和53年から「日本酒の日」として定められたが、多くの人に「日本酒の日」を知ってもらおうと各地でさまざまなイベントが開催されている。日本酒造組合中央会も当日、酒造会館1階にある日本の酒情報館前で振る舞い酒を開催。正午と午後5時の2回、各回200人に樽酒を提供した。

シグナル

新政権は酒税と租特に配慮を

民主党政権について日本酒蔵元に聞くと期待と不安が半々という雰囲気だ。酒税増税への懸念が聞かれるが、具体的政策を見て判断したいと様子見だ。民主党では「国内酒造・酒販振興議員連盟」が66名を抱えており、業界団体ではパイプを形成しつつある。顧問に藤井裕久財務相、代表は野田佳彦副財務相という顔ぶれだ。

喫緊の課題が酒類に関する租税特別措置法の取扱いだ。前年度の出荷が1300kℓ以下の日本酒、焼酎、果実酒などのメーカーを対象に、200kℓまでの範囲について酒税を軽減する措置。

平成20年度の税制改正大綱で軽減割合は見直されたものの業界では延長を勝ち取った経緯があるが、このままいけば平成24年度で期限が切れてしまう。日本酒蔵の場合、現在約1800社の95%が、1社当たり最大600万円の酒税が軽減されている。この軽減措置がなくなると、その分がそのまま酒税負担増となって跳ね返ってくることから、経営に行き詰る企業が多数出てくる。

民主党は「既得権の一掃」「租特法の抜本的な見直し」を掲げてはいるが、中小零細企業を守るために「(租特は)真に必要な措置は恒久化する」ともしており、冷静な判断を求めたい。

酒税改正については当分先の話になりそうだが、折にふれて酒類業界の実態を伝える努力は必要となるだろう。

（瀬戸）